

**令和 8 年度 第 1 回地方独立行政法人京都市産業技術研究所
評価委員会 会議録**

日 時：令和 8 年 8 月 4 日（火）午後 1 時～午後 3 時

場 所：京都市産業技術研究所 2 階 ホール A・B

議題：（１）令和 7 年度の業務実績評価について

（２）第 3 期中期目標期間における業務実績評価について

議事要旨：

・以下、各委員の質問・意見など（○：委員、●：京都市、◎：産業技術研究所 と表記）

【 1 開 会】

・草木 京都市産業観光局長からの挨拶

【 2 議 題】

（１）令和 7 年度の業務実績評価について

～事務局から評価の流れについて説明～

～京都市から資料 1 及び資料 2 に基づき評価案について説明～

○： 技術相談の新規利用者数や共同研究件数が年々減少しているのが気になる。SNS を活用するなどの手法で認知度向上を目指し、利用者増加に努めてほしい。

◎： SNS の活用については引き続き実施してまいる。また、ACT 京都へのサテライトオフィスの設置による積極的な企業への働きかけやスタートアップイベント「IVS」において「公設試を使い倒せ」というタイトルで情報発信するなど、認知度向上に努めている。

共同研究の件数は減少しているものの、より内容を充実させた質の高い共同研究を目指しており、社会実装につながる研究や、簡易受託研究制度から共同研究への展開を重視している。

○： 無料相談件数が増加している一方で新規利用者数は減少しており、対応の質と相談件数のバランスが取れているか懸念する。無料技術相談では過去の事例等を用いた AI チャットボットによる案内等の相談窓口の質及び効率の向上に向けた対応策等は取られているか。

また、自己収入の額が単年度目標を下回る要因として、機器の突発的故障や空調の大規模改修を理由とされているが、これは予測可能なリスクで

あると考えることから、今後の予測可能なリスクへの対応策について教えて頂きたい。

◎： 相談対応の質と件数のバランスを取るにあたり、利用者自身が機器を操作し、研究員がデータ解説等をサポートするハンズオン支援機器制度を導入するなど、制度の一部見直しを実施した。令和7年度4月以降、対象を28機器まで拡大している。

●： 空調の大規模改修については、単年度で一括完了させて稼働停止期間を最小限に抑え、耐用年数を超えた機器類の更新も京都市の予算で実施している。今後も長期修繕計画に基づく計画的な対応に努めてまいる。

○： 毎年目標を大幅に達成し、S評価やA評価にされている項目については、更に高い目標を掲げるべき。また、挑戦した取組自体を評価する制度も導入すべきではないか。

京都市産技研はAIやIT分野に強いというイメージが薄いため、その点のPRを強化すべきではないか。

●： 評価基準については、昨年度も御指摘いただいております、第4期中期目標期間では、目標期間中の見直しを行うことを明示している。難易度・定量及び定性評価を考慮し、委員とも意見交換しながら進めてまいる。

また、第4期中期目標期間では職員のチャレンジ精神を評価するべく、新たにモニタリング指標を基準に掲げている。

◎： 工場での生産工程の自動化支援や西陣織のAI検知器による傷の判別等、既にAIやITの活用は進めており、AI導入ガイドラインを制定し、全職員へのAI研修も実施している。しかしながら、こういった活動内容が事業者には伝わっていないことから、引き続き広報活動を行うとともに改善に努めていく。

◎： これまで培ってきた伝統産業の技術を活かし、今後はスタートアップ支援等、新しい分野へも展開していきたい。

○： SNSも種類によってターゲット層が異なるため、媒体の特性に合わせた情報発信が重要である。

また、組織の特性上受け身になりがちだが、能動的にPRするよう活動していくべき。

ハンズオン支援機器制度はとても良い取組であるため、さらに強化して

ほしい。今後は職員のスキル低下防止のためにも、寄り添う支援が重要と考える。

- ◎： いただいた御意見は参考にさせて頂く。京都市産技研では、「課題オリエンテッド」という企業の課題解決の可能性検証等の取組を実施しており、次のフェーズに繋がられるような支援を推進している。
- ◎： 外部資金については、審査はあるものの、研究員が将来の課題となる研究を計画・推進できるように今後も幅広い支援を推進してまいる。
- ： 情報発信の点では広域的なマーケティングが重要と考えており、I V S等のイベントで顧客と接点が生まれることで具体的な支援に繋がる事例もある。京都市職員間でも情報共有を密にし、京都市産技研の認知度向上に努めていく。
- ： O R Tのリニューアルについて、変更点等詳細を知りたい。事例として挙げられているカッティングプロッターのように将来を見据えた技術展開はとても重要な取組といえる。
今回の空調設備改修が自主財源の確保に影響を与えている点を踏まえ、B C P（事業継続計画）の観点から、今後のリスクへの備えの体制について伺いたい。
- ◎： O R Tは、実践を通して企業の技術能力向上を図るプログラムであり、専門知識及び技術の普及展開を目的としている。主な変更点は、インキュベーション施設に入居する企業に対して、京都市内と同じ料金でO R T制度を利用できるようになったところである。
B C Pについては、先日の熊本地震の教訓も参考に検討していく所存。令和8年度においても老朽化した機器の更新を進めるにあたり、将来を見据えた対応をしていく。

（3）第3期中期目標期間における業務実績評価について

～事務局から評価の流れについて説明～

～京都市から資料3に基づき評価案について説明～

- ： 第3期中期目標期間では、令和7年度に機器の突発的な故障があったとのことだが、計画通りとして評価されている点はやや疑問。今後はこの点を踏まえて、より先を見据えた計画を立てるべきではないか。

- ： 委員ご指摘のとおり、今後はより計画的に施設管理を行ってまいりたい。
- ◎： 令和７年度に新たに施設長寿命化計画を策定し、京都市に対して予算要求の上、修繕を行っている。今後も施設設備状況を都度確認の上、計画に反映してまいる。
- ： 臨時的な支出が発生した場合、保有している株式を売却し、その売却資金で補填することは可能か。また、コロナ禍以降、伝統産業の売上の減少に伴う後継者不足が深刻化している。このような課題を持たれている企業を助ける役割を京都市産技研でできることを期待する。
- ◎： 後継者問題については、産技研ユース・コミュニティの取組の一つとして Japancraft21 からの支援を頂くなど、今後も「知恵と精神の融合」の場として京都市産技研が支援できることを実施してまいる。
- ◎： 株式は寄付で頂いたものであるため売却は厳しいが、配当金は順次研究に活用している。臨時的支出については剰余金も活用し、適切に対応していく。
- ◎： 伝統産業における経営面の支援を京都市産技研で行うのは厳しいが、技術支援の立場から解決できることもあるため、引き続き実施してまいりたい。
- ： 委員の御指摘のとおり、伝統産業においては技術支援だけでなくマーケティングや経営面の課題がある。京都市としては、引き続き産業支援機関や金融機関とも連携し、経営支援から技術支援及び販路開拓まで連携して対応していく。
- ： 全体的に目標設定及び評価基準が明確で効率的な管理が成されており、かつ全ての評価が「４」になっているなど、継続して安定した経営体制がとれている。
今後「Good Practice!」の創出と共有財産化がさらに進み、研究者及び職員の業務効率化や時間・エネルギーの確保に繋がることを期待する。
- ： 第３期中期目標期間評価については特段意見なし。
- ： 第３期中期目標期間での組織改革により、京都市産技研は「自由闊達」

な組織になったと実感している。この間、京都市産技研ならではのブランド力向上や広報にも力を入れられていることから、第4期中期目標期間でのさらなる進化と飛躍に期待する。

(5) その他

～事務局から今後の予定について説明～

【3 閉会の挨拶】

- ・京都市産業技術研究所からの挨拶